



Title	Gallia 55号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2016, 55, p. 198-207
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61931
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会員研究活動報告

(2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

青木 佑介

論文

- ・ *Hiroshima mon amour* における水と忘却 (*Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 113-122, 3 月)
- ・ Marguerite Duras et la littérature de l'oubli : au travers de la mémoire dans *Hiroshima mon amour* (*EBOK*, 27 号, 神戸大学仏語仏文学研究会, pp. 109-130.)

翻訳

- ・ カトリヌ・ムリス、「開かれた輪郭」(『日仏マンガの交流—ヒストリー・アダプテーション・クリエーション—』, 思文閣出版, 3 月)

足立 和彦

共著

- ・『即効! フランス語作文 自己紹介・メール・レシピ・観光ガイド』(駿河台出版社, 9 月)

書評

- ・カチュール・マンデス『童貞王』, 中島廣子・辻昌子訳, 国書刊行会(『図書新聞』, 3236 号, 12 月)

安達 孝信

口頭発表

- ・ユイスマンスの散文詩集『薬味箱』における絵画的描写(第 77 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 大阪大学, 10 月 3 日)
- ・ユイスマンスの自然主義小説における理想的画家像の変遷—『ヴァーताल姉妹』から『世帯』へ—(日本フランス語フランス文学会関西支部会, 於大手前大学, 12 月 5 日)

阿南 婦美代

共著

- ・『パシヨネマン I (三訂版)』(第三書房, 3 月)

井上 直子

論文

- ・芸術における「現代性」—ボードレー、ランボー、マラルメ、ヴァレリー、ブルトナー—(『大阪教育大学紀要』, 第一部門(人文科学), 第 63 巻第 2 号, pp. 1-24, 2 月)
- ・ヴァレリーのパスカル批判—『パンセ』の三つの句をめぐって—(『大阪教育大学紀要』, 第一部門(人文科学), 第 64 巻第 1 号, pp. 11-32, 9 月)

口頭発表

- ・ヴァレリーとパスカル(第 76 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」, 於大阪大学豊中キャンパス, 3 月 7 日)

井元 秀剛

論文

- ・間接語法における時制—直示中心の移動か時制の一致か—（言語文化共同研究プロジェクト 2014『時空と認知の言語学 IV』, p. 1-10, 5月）

岩根 久

論文

- ・16世紀フランス詩の音の分析に向けて—N-gram とデンドログラムの利用—（『人文学データのマイニング II（統計数理研究所共同研究リポート 345）』, 統計数理研究所, pp. 11-20, 3月）
- ・Rを用いたテキストマイニング 5—N-gram による 16 世紀フランス詩の分析—（『電子化言語資料分析研究 2014-2015（言語文化共同研究プロジェクト 2014）』, 大阪大学大学院言語文化研究科, pp. 15-28, 5月）

口頭発表・
講演・
学会報告

- ・第2外国語における反転学習の導入実践報告（関西大学シンポジウム「反転学習はディープ・アクティブラーニングを促すか？」安部有紀子氏との共同ポスター発表, 第3回反転学習公開研究会, 於関西大学, 2月24日）
- ・16世紀フランス詩の音の分析に向けて—N-gram とデンドログラムの利用—（統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」, 於統計数理研究所, 3月23日）
- ・フランス語初級（文法）クラスで反転授業をやってみた—「反転授業」的な方法は吉か凶か？—（京都外大 AP 研修会, 於京都外国語大学, 7月12日）

岩村 和泉

口頭発表

- ・バルザック「青年期の小説」における社会への視線—société の語の使用例をめぐって—（合同バルザック研究会, 於明治学院大学, 5月30日）

上江洲 律子

論文

- ・マルロー『人間の条件』における「身体」イメージの混在（*Gallia*, n°54, pp. 103-112, 3月）
- ・身体性が喚起する女性性について—マルロー『人間の条件』を巡って—（『沖縄国際大学外国語研究』第19巻第1号, pp. 1-17, 9月）

植村 実江

口頭発表

- ・スタール夫人の『コリンヌあるいはイタリア』における文学論』（第4回関西学生フランス文学研究会, 於大阪大学, 8月）

太田 晋介

論文

- ・深淵の構築：フランシス・ポンジュとアトリエにおける記憶という問題系（*Gallia*, n° 54, pp. 93-102）

- ・ Francis Ponge dans et face au spectacle du sommeil (*Études de langue et littérature françaises*, n° 107, pp. 121-136)
- 口頭発表
・ 絵画が／を語る技法：ボンジュ芸術エッセーの方法と特色（関西マラルメ研究会, 於神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ, 3月27日）
- 翻訳
・ ベルナール・ビュフェ、ルイーズ・ド・ヴェルモラン『植物誌図集 *Herbier*』（抄訳：ベルナール・ビュフェ美術館「画家と版画 拡がるイメージ」展のための館内閲覧資料として配布・公開）
- 小川 美登里
- 共著
・ *Pascal Quignard. La Littérature à son Orient* (Midori OGAWA, Christian DOUMET, dir., Presses universitaires de Vincennes, coll. «L'imaginaire du texte», 190p.)
- 論文
・ Entre la catastrophe et la survivance : *Hiroshima mon amour*, 55 ans après (『ステラ』, 第33号, 九州大学フランス語フランス文学研究会, pp. 303-314)
- ・ Ecrire sur le corps mort du monde —Sur *Hiroshima mon amour*— (『立教大学フランス文学』, 第44号, 立教大学フランス語フランス文学研究室, pp. 35-48)
- ・ L'ode de Pascal Quignard (*Pascal Quignard, La Littérature à son Orient*, Presses universitaires de Vincennes, coll. «L'imaginaire du texte»)
- ・ L'imaginaire d'un Japon secret (*Pascal Quignard. Traductions et métamorphoses*, Hermann, pp. 133-152)
- ・ Le chant d'adieu (*Mireille Calle-Gruber, L'Amour du monde à l'abri du monde dans la littérature*, Hermann, pp. 53-62)
- 口頭発表
・ Sur la question des genres dans l'œuvre de Pascal Quignard (Séminaire de l'équipe «littérature, philosophie, arts», 於パリ第八大学, 3月24日)
- ・ Le Japon de Pascal Quignard (Séminaire de l'équipe «littérature, philosophie, arts», 於パリ高等教育学校, 4月3日)
- ・ ブルーストと20世紀、たとえば女性作家や思想家たち（日本フランス語フランス文学会ワークショップ, 於明治学院大学, 5月30日）
- ・ Recits de la traduction ; traduire chez Pascal Quignard (Colloque international «Recherche et traduction», 於人民大学（中国）, 10月31日）
- 書評
・ 鏡のなかの女たち（ポール・コンスタン, 『打ち明け話』（人文書院）書評, 『図書新聞』, 第3201号, 3月）
- 柏木 加代子
- 翻訳・解説
・ 『フロバール 心の城』（大阪大学出版会, 3月, p. 303）
- 共著
・ 土田麦僊とヴェトイユの少女（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, pp. 206-219, 3月）

- 口頭発表
- ・日本画家土田麦僊に見るフランス絵画の受容（於天津外語大学（中国）, 10月20日）
 - ・トロンコワ・コレクションの芝居絵を読む（日仏文化交流シンポジウム：「日仏文学・美術の交流—トロンコワ・コレクションとその周辺その2—」, 於大手前大学, 11月22日）
- 柏木 隆雄
- 共著
- ・太宰治のフランソワ・ヴィヨン体験—『乞食学生』を貫くフランソワ・ヴィヨン『大遺言書』詩句借用（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, pp. 99-123, 3月）
- 共編著
- ・まえがき（『日仏マンガの交流—ヒストリー・アダプテーション・クリエーション—』, 石毛弓, 小林宣之共編, 大手前大学文化交流研究叢書 11, 思文閣出版, pp. i-v, 3月）
 - ・フランス漫画の原点—グランヴィル、ガヴァルニ、ドミーエ—（『日仏マンガの交流—ヒストリー・アダプテーション・クリエーション—』, 石毛弓, 小林宣之共編, 大手前大学文化交流研究叢書 11, 思文閣出版, pp. 106-133, 3月）
- 論文
- ・菊池寛とバルザック—『真珠夫人』をめぐる—（*Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 33-42, 3月）
 - ・菊池寛の文学—『真珠夫人』をめぐる—（「大手前比較文化学会会報」第16号, pp. 9-10, 3月）
 - ・小説家小林一三の位置（『文学』第16巻・第2号, 岩波書店, pp. 282-304, 3月）
 - ・三好達治の詩的空間—フランス詩との関わりをめぐる—（大手前大学論集, 第15号, pp. 43-65, 3月）
- 書評
- ・赤木昭三著『フランス近代の反宗教思想』書評（『信濃毎日新聞』1994. 3. 13よりの再録, *Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, p. 29, 3月）
- エッセー・座談会・冊子
- ・赤木昭三先生の思い出（*Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 125-126, 3月）
 - ・2014年度の大手前大学院（「大手前比較文化学会会報」第16号, pp. 1-2, 3月）
 - ・丹羽保次郎顕彰碑 碑文（三重同工会, 三重県立松阪工業高校 赤壁資料館前, 6月7日）
 - ・新しい仲間をお迎えして（*AMAMUS OTEMAE*, 4号, 大手前大学, p. 1, 6月17日）
 - ・理事長就任にあたって（『赤壁』第89号, 三重同工会, pp. 2-3, 9月10日）
 - ・「やそしま」第9号（（公財）関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会, pp. 104-165, 10月31日）

口頭発表・
講演

- ・大手前大学の新しい風 (*Otemae Winds*, No.42, 大手前学園, p. 6, 11 月 1 日)
- ・「どうこういせ」に寄せて (『どうこういせ』第 32 号, 三重同工会伊勢支部, pp.2-3, 12 月 1 日)
- ・小説家小林一三 (「武庫川倶楽部」講演, 於宝塚ホテル, 3 月 11 日)
- ・小説『真珠夫人』とフランス小説 (三重日仏協会, 放送大学三重学習センター共催, 於三重県総合文化センター文化会館, 4 月 12 日)
- ・グローカル現象としての三好達治の詩業 (成城大学「グローカル文化研究所」講演, 於成城大学, 10 月 9 日)
- ・三好達治: 叙情詩の世界 (東北大学秦皇島分校講演, 於中国東北大学秦皇島分校, 10 月 19 日)
- ・大正・昭和の文壇の王―菊池寛の文学 (天津外国語大講演, 於天津外国語大学, 10 月 20 日)
- ・フェリシアン・シャレー『絵入り日本』とエマニュエル・トロンコワ (シンポジウム「日仏文学・美術の交流―トロンコワ・コレクションとその周辺―その 2」, 於大手前大学 セル・フォーラム, 11 月 22 日)
- ・私の松工時代―将来をどう選ぶか― (松阪工業高校デリヴァリー授業, 三重同工会主催, 於三重県立松阪工業高校, 12 月 14 日)

粕谷 祐己

口頭発表

- ・英語と上手につきあおう! (関西フランス語教育研究会 (Rencontres pédagogiques du Kansai), 於アンスティチュ・フランセ関西―大阪, 3 月 20 日)

加藤 靖恵

論文

- ・Les goûter sur la falaise : montage de l'histoire des jeunes filles pendant les années 1914-1918 (*Bulletin d'informations proustiennes*, n° 45, pp. 61-74)
- ・Elstir et Emile Mâle : le discours sur l'église de Balbec dans le Cahier 34 (*Proust et les Moyen-âges*, sous la direction de Sophie Duval et Miren Lacassagne, Hermann, pp. 197-218)
- ・La Vierge dorée d'Amiens et sa haie d'aubépines (*Bulletin Marcel Proust*, n° 65, 2015, pp. 51-64)

口頭発表

- ・ブルーストとラスキン: アミアンとリジューの植物の彫刻 (関西ブルースト研究会, 於京都大学, 12 月 19 日)

金崎 春幸

論文

- ・フローベールと仏教 (大阪大学言語文化研究科『言語文化研究』41 号, 3 月)

エッセー

- ・フローベール『聖ジュリアン』と鹿 (『流域』77 号, 10 月)

川上 紘史

- 論文 ・ パスカルにおける《盲目》について（関西フランス語フランス文学，第21号，pp. 51-62, 3月）

- 口頭発表 ・ パスカルとアルノーの洗礼観比較—習慣と教育を中心に—（第4回関西学生フランス文学研究会，於大阪大学，8月）

北村 卓

- 編著 ・ 『フランスを読み解く鍵 第1巻（改訂版）』（アシェット・ジャポン，78p., 4月）

- ・ 『表象と文化Ⅻ』（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2014」，102p., 5月）

- 共著 ・ 宝塚歌劇におけるフランス的なものをめぐって（『フランスと日本—遠くて近い二つの国』，CAF10周年記念論集編集委員会編，早美出版社，pp. 159-172, 3月）

- 論文 ・ 日本におけるボードレール受容のパスpekティブ（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2014」『表象と文化Ⅻ』，pp. 55-64, 5月）

- 口頭発表 ・ 日本におけるボードレール受容のパスpekティブ（日本比較文学会関西支部研究例会，於関西学院大学梅田キャンパス，4月18日）

- 講演 ・ グローカル現象としてのボードレール受容—文学からマンガまで—（於成城大学グローカル研究センター，7月10日）
- ・ Perspective on Baudelaire's Reception in Japan from the Meiji Era to the Present, (International Symposium «Cultural Modernism IV: Baudelaire in Japan», Vanderbilt University, Nashville, USA, 11月5日)

小林 宣之

- 論文 ・ 中村真一郎に魅せるネルヴァル 女優の問題（四）（『中村真一郎手帖10』，水声社，4月）

坂巻 康司

- 口頭発表 ・ 萩原朔太郎とボードレール—感覚と声の詩学（シンポジウム『近代日本におけるフランス象徴主義—受容・模倣・創造—』，学習院大学，3月15日）

- ・ マラルメと雑誌メディア—『ワーグナー評論』を中心に（日本フランス語フランス文学会東北支部大会，シンポジウム「世紀末の文芸誌と作家たち」，石巻専修大学，11月7日）

- 書評 ・ 哲学者が語る象徴主義詩人—ランシエールのマラルメ論（『ヨーロッパ研究』第10号，東北大学大学院国際文化研究科ヨーロッパ文化論講座，pp. 313-315, 3月）

- ・ シュ・シャオメイ『永遠のピアノ』、醸成する「生への希望」一常に自省しつづける稀有な音楽家の自叙伝—（『週刊読書人』, p. 8, 7月24日号）
- 報告 ・ ワークショップ報告：哲学者が語る複数のマラルメ像（*Cahier*, 15号, 日本フランス語フランス文学会, pp.26-27, 3月）
- 阪村 圭英子
共著 ・ 睡蓮の花をめぐるジャポニスム（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, 3月）
- 高岡 尚子
論文 ・ 老いゆく女の尊厳—母を看取る娘（作家）たちのことば——（奈良女子大学文学部欧米言語文化研究会『欧米言語文化研究』第2号）
- 口頭発表 ・ Solange Clésinger-Sand : écrivaine ou fille d'écrivaine ?（第20回国際ジョルジュ・サンド学会, 於ヴェローナ大学／イタリア, 6月30日）
- ・ 母を看取る女性作家たちのことば—ジョルジュの娘ソランジュを含めて—（大阪大学フランス語フランス文学会第77回研究会, 於大阪大学文学部, 10月3日）
- 高橋 愛
論文 ・ ギョザ『ルルド』、『パリ』とオーギュスト・パリの共和国像—屹立するマリア、生の表現としてのマリアンヌ—（『社会志林』, 第62巻第1号, pp. 141-152, 7月）
- 武田 裕紀
論文 ・ Les objets les plus simples dans la demonstration de l'optique（『追手門学院大学基盤教育論集』第2号, pp. 17-24）
- 共訳・責任編集 ・ 『デカルト全書簡集 第三巻』（知泉書館）
- 翻訳 ・ アンドレ・シャラック「西洋近代合理性の出現におけるハルモニアの位置」（『追手門学院大学基盤教育論集』第2号, pp. 45-58）
- 口頭発表 ・ 『ポール＝ロワイヤル論理学』とデカルト—「定義」を巡って—（「＜表象＞のパスカル——パスカル学への新たな寄与の試み」第1回研究会, 大阪大学豊中キャンパス, 7月25日）
- 竹鼻 智子
口頭発表 ・ ヴィヨンとゴーチエ（第4回関西学生フランス文学研究会, 於大阪大学, 8月）

立川 信子

- 論文 ・ ジッドに対するスタンダーの「影響」(愛媛大学法文学部論集人文
学科編 n° 39, pp. 1-24, 9月)

アニエス・ディソン

- 論文 ・ *Ryoko Sekiguchi : spéculations fantômes* (Revue Sites, Contemporary
French & Francophone Studies, Routledge USA, vol. 20, octobre)
・ *Daniel Humair : Formes, trait, espace* (Livre d'artiste, Centre d'Art
Contemporain, Atelier de l'imprimé, Châtellerauld)

寺本 成彦

- 論文 ・ モーパッサン「野あそび」からジャン・ルノワール『ピクニック』へ
の道程 (『ヨーロッパ研究』n° 10, 東北大学大学院国際文化研究科ヨー
ロッパ文化論講座, 3月)
- 口頭発表 ・ ロートレアモンとパスカル (第76回大阪大学フランス語フランス文
学会研究会, 赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」, 於大
阪大学豊中キャンパス, 3月7日)
・ 寺山修司におけるロートレアモン (シンポジウム「近代日本における
フランス象徴主義—受容・模倣・創造—」, 於学習院大学, 3月15日)

永瀬 春男

- 口頭発表 ・ パスカルにおける科学、論争、レトリック—計算機体験を中心に
(「<表象>のパスカル——パスカル学への新たな寄与の試み」第2回
研究会, 岡山大学言語教育センター, 10月10日)

長谷川 富子

- 共編著 ・ 鹿鳴館の舞踏会—ピエール・ロティと芥川龍之介— (『フランスと日
本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, 3月)

濱田 明

- 論文 ・ Lafcadio Hearn et la littérature française (*Lafcadio Hearn Studies*,
Vol.2, The Life and Times of Hearn, Society for Lafcadio Hearn Studies,
Kumamoto University, pp. 31-34, 3月)
- 口頭発表 ・ ハーンとフランス文学 (熊本八雲会「ハーン作品トークの会」, 小泉八
雲熊本旧居, 7月26日)
・ 「柔術」にみる東洋と西洋 (熊本大学学術資料調査研究推進室「ラフ
カディオ・ハーン「東の国から」発刊120年記念シンポジウム」, 熊本
大学, 11月19日)

- ・フランスの思想と病い—モンテーニュは病気とどう付き合ったか—
(熊本大学公開講座「世界の宗教と思想から見る病いと癒し」, 熊本大学, 12月12日)

林 千宏

論文

- ・印刷の時代における『夢』—レミ・ベロー「牧歌」(一五六五)を中心に—
(『夢見る日本文化のパラダイム』 荒木浩編, 法蔵館, pp. 470-501)

口頭発表

- ・デュ・ベレー『ローマの古跡』『夢』における隠蔽と解説 (日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「フランス・ルネサンス文学における隠蔽と解説」, 京都大学, 11月1日)

書評

- ・『フランス・ルネサンス文学集1 学問と信仰と』(『ふらんす』, 白水社, 6月号, p. 72)

春木 仁孝

論文

- ・tout の強意用法について (『フランス語学の最前線』3, ひつじ書房, pp. 61-105, 5月)
- ・tout un N —数量表現から強意表現へ— (言語文化共同プロジェクト2014『時空と認知の言語学IV』, pp. 31-40, 5月)

藤田 義孝

単著

- ・サン＝テグジュペリにおける「語り」の探求—『南方郵便機』から『星の王子さま』へ— (朝日出版社, 12月)

松川 みゆう

論文

- ・ルソーとサン＝ピエール『永久平和論』(関西フランス語フランス文学, 第21号, pp. 123-134, 3月)

口頭発表

- ・『社会契約論』における人体の比喩 (日本フランス語フランス文学会関西支部会, 於大手前大学, 12月5日)

森 康晃

口頭発表

- ・マルセル・ブルースト『失われた時を求めて』における「七重奏曲」研究—フィクションによる音楽表象— (大阪大学三谷研爾教授授業「コンフリクトの人文学」, 於大阪大学, 5月29日)
- ・『失われた時を求めて』における「七重奏曲」の機能—なぜ les cuivres でなければならないのか— (関西ブルースト研究会, 於京都大学, 9月26日)
- ・マルセル・ブルースト『失われた時を求めて』における音楽と啓示—ヴァントゥイユの「七重奏曲」研究— (第75回大阪大学フランス語フランス文学研究会, 於大阪大学, 10月3日)

山崎 恭宏

口頭発表

- ・バルザックにおける E. T. A. ホフマン『ドン・ジュアンの上演』の受容—『あら皮』を中心に（日本フランス語フランス文学会秋季大会、於京都大学、10月31日）
- ・オペラの空間と牢獄（関西バルザック研究会、於大手前大学、12月23日）

山上 浩嗣

翻訳

- ・ジャンニ・パガニーニ「モンテーニュと近代懐疑主義」（『思想』1098号（2015年10月号）、岩波書店、pp. 7-24, 9月）

共訳

- ・『デカルト全書簡集』第3巻、武田裕紀・香川知晶・安西なつめ・小沢明也・曾我千亜紀・野々村梓・東慎一郎・三浦伸夫・山上浩嗣・Claire Fauvergue 訳（山上担当：pp. 5-8, 29-32, 147-148, 174-175, 219-222, 225-228, 249-252, 272-275, 278-280, 285-296, 315-317, 321-329）（知泉書館、2月）

口頭発表

- ・ヴォルテールのパスカル批判（第76回大阪大学フランス語フランス文学会研究会、赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」、大阪大学豊中キャンパス、3月7日）
- ・パスカルと動物の魂——動物機械論と『パンセ』（「＜表象＞のパスカル——パスカル学への新たな寄与の試み」第1回研究会、大阪大学豊中キャンパス、7月25日）
- ・モンテーニュ、デカルトの動物論とパスカル（京都大学人文科学研究所「環世界の人文——生きもの・なりわい・わざ」研究班（大浦康介班長）例会、京都大学人文科学研究所、10月5日）

エッセー

- ・平野隆文さんの思い出（『この聖なる友情——平野隆文先生追悼文集』Association Takarabelais (takarabelais03022015@gmail.com), 全2巻：第2巻、323-325頁、8月）

山本 健二

論文

- ・La poétique de l'*Album zutique* et Verlaine zutiste—Autour du «Propos du Cercle» et du «Pantoum négligé» — (*Gallia*, n° 54, pp. 63-72, 3月)

口頭発表

- ・初期ヴェルレーヌにおける『悪の華』の受容と実践（日本フランス語フランス文学会全国春季大会、明治学院大学、5月30日）